

【和歌山県】



和歌山県立熊野高等学校

熊野サポーターズリーダー制作班



「熊高“絆”プロジェクト」

①高齢者宅を訪問し安否確認を行うハートフルチェックボランティア

約2年ぶりにハートフルチェックボランティアによる高齢者宅訪問を再開しました。5月下旬から週1回のペースで対象の高齢者宅を手分けして訪問しています。本年度からは地元消防団も活動に加わり試行的に訪問に同行しています。OGでもある消防団員は「卒業後もこうやって活動できるのはうれしい、地域に貢献したい」と話しています。



②地域イベント活動/ダンス披露や交流活動



地域で開催される「紀州よさこい祭り」ほか、行政による地域活性イベントなどで、よさこい踊りやHIPHOPダンスを披露して会場を盛り上げています。講演会のオープニングや、子どもたちの貧困救済を目的としたマルシェでのブーススタッフ等にも積極的に参加しています。

③脱プラスチック「麦わらストローボランティア」



脱プラスチックストローを目指したSDGs14.15（海と陸の豊かさを守ろう）の取り組みでサポーターズダンス班全員で講演会を受講し、地元の方々から育てた麦を再利用してストローを作りました。その後この活動をInstagramで拡散しました。



「女性のAED使用率を高めるために」 ～AEDシート作成物語～

★AEDについて

AEDの使用が必要となるのは、何らかの理由で心臓が正しいリズムで脈打てなくなり、心臓のポンプ機能が果たせなくなる心室細動や伸縮頻脈が起きたときです。心室細動や心室頻脈は誰にでも起こりうることです。最近ではAEDを使用しその場に居合わせた人が電気ショックを与えることが救急処置法として知られています。また日本AED財団によるとAEDを用いて電気ショックが行われれば、約6倍の人の命が救えると言われています。そこで女性のAED使用率が少ないことに着目し、AEDシートの作成を始めました。

★AEDシート作成のきっかけ

《日本では》1年間で約7.9万人、1日で約200人
7分に一人が心臓突然死で亡くなっている

男性よりも女性のAED使用率が少ない

《高校生のAED使用率》

男子高校生・・・83.2%・女子高校生・・・55.6%

【理由】上半身を出すことに抵抗＝女子にはAEDが使われにくい

私たちは女性のAED使用率を上げるため上半身を隠すシートの制作を開始しました。現在の形になるまでには消防署の方たちとも連携を取り、何度も試行錯誤を重ねました。

★素材について

最初は捨てられる傘を使用し作りましたが、使用後は洗うことができるようにナイロン製の布地を使い、扱いやすくしました。AEDシートの両端部分には使用しなくなった捨てられる教科書など裁断し重りとして活用しています。重りは頑丈にするためにのり付けしていますが、雨に濡れた場合はばらばらになることも考えられ、角もがっているため改良が必要だと感じています。

★AEDシートが入っている袋には熊野高校をイメージした熊野イラストが描かれています。そして、誰もが簡単に使用することができるように説明書と一緒になっています。

★AEDシートは胸骨圧迫をする際に一目で分かるように目印をつけ、電極パッドは皮膚に直接貼るため位置も分かりやすいようになっています。分かりやすくすることでAEDを操作する人が落ち着いて確認行動することを目的としています。